

ò › ± v æ ' Ð \* ç R 21 å S Ù æ ! ò › o Ð \* £

木田浩司，濱野雅子，藤井理津志，葛谷光隆，川井睦子\*（ウイルス科）

\*保健福祉部健康対策課

## 【資 料】

## 感染症流行予測調査（平成21年度ポリオ感染源調査）

Surveillance of Polio in Okayama Prefecture (2009-2010)

木田浩司, 濱野雅子, 藤井理津志, 葛谷光隆, 川井睦子\* (ウイルス科)

\*保健福祉部健康対策課

Koji Kida, Masako Hamano, Ritsushi Fujii, Mitsutaka Kuzuya and Mutsuko Kawai

## 要 旨

厚生労働省委託事業である感染症流行予測調査の一環として、ポリオウイルス野生株の進入監視を目的として感染源調査を実施した。岡山市の健康な保育園児60名を対象に、平成21年7月から8月に採取した糞便検体からポリオウイルスの分離を試みたが、全て陰性であり、ポリオウイルス野生株の進入は認められなかった。

[キーワード：感染症, サーベイランス, ポリオウイルス]

[Key words : Infectious disease, Surveillance, Polio virus]

## 1 はじめに

厚生労働省委託事業である感染症流行予測調査は、予防接種が実施されている様々な感染症に対する集団免疫の把握状況(感受性調査)及び病原体の検索等の調査(感染源調査)を行うことで、総合的に疾病の流行を予測するとともに、予防接種事業の効果的な運用を図ることを目的としている。本年度、岡山県で実施したポリオウイルスの感染源調査はその一環であり、我が国では1993年以降確認されていないポリオウイルス野生株の国内進入を監視するために重要である。

## 2 材料及び方法

感染症流行予測調査実施要領(平成21年度)及び伝染病流行予測検査術式(平成7年度)<sup>1)</sup>に従って実施した。

岡山市内のM保育園の健康な園児60人(0～1歳20人, 2～3歳20人, 4～6歳20人)から、ポリオ生ワクチン投与後2ヶ月以上経過した平成21年7月29日～8月20日の期間に糞便を採取し、FL細胞及びRD18S細胞を用いてポリオウイルスの分離を行った。

## 3 結果及び考察

表1に年齢群別ポリオ及びその他のウイルス分離成績を示す。ポリオウイルスの分離はすべて陰性であった。その他のウイルスとしてエコーウイルス11型(E11)22株

表1 年齢群別ポリオ及びその他のウイルス分離成績

年齢群 (歳)	検体数	ウイルス分離				合 計
		ポリオ	E11	CA10	AD2	
0～1	20	0	4	1	1	6
2～3	20	0	12	0	0	12
4～6	20	0	8	0	0	8
合 計	60	0	24	1	1	26

(1歳児4人, 2歳児8人, 3歳児4人, 4歳児3人, 5歳児4人, 6歳児1人), コクサッキーウイルスA群10型(CA10)1株(1歳児1人)及びアデノウイルス2型(AD2)1株(1歳児1人)が分離された。

E11は岡山県内の感染症発生动向調査(平成21年度)では全く分離されていないにもかかわらず、本調査では最も多く分離された。これは、感染症発生动向調査が有症患者を対象とするのに対し、本調査は基本的に無症者を対象とすることが一因として考えられる。全国的(平成21年度)には6月～8月に多く検出され、エコーウイルスの中では最も報告数が多かった<sup>2)</sup>。本調査の結果と全国的な分離状況を勘案すると、本県にも6月～8月頃に本ウイルスの広範な浸淫があった可能性が高いと考えられる。

CA10は岡山県内の感染症発生动向調査では5月及び11月に各1株分離されたのみであったが、全国的(平成21年度)には6月～10月に多く検出され、コクサッキー

ウイルス A 群の中ではコクサッキーウイルス A 群 9 型、6 型に次いで報告数が多かった<sup>2)</sup>。全国的な分離状況を考えると、本県にも年度を通じた本ウイルスの広範な浸淫があった可能性が高いと考えられる。

AD2 は岡山県内の感染症発生動向調査では 4, 5, 6, 11, 12 及び 1 月に合計 13 株分離され、アデノウイルスの中では最も多く分離された。全国的(平成 21 年度)にも季節的な偏りはなく検出され、アデノウイルスの中では最も報告数が多かった<sup>2)</sup>。全国的な分離状況を考えると、本県にも年度を通じた本ウイルスの広範な浸淫があった可能性が高いと考えられる。

本調査は、第一義的にはポリオウイルスの感染源を特

定する目的で実施されるが、感染症発生動向調査では掴みきれないウイルスの侵淫状況を推察できる点で意義深い。調査の性格上、短期間に県全域を対象に実施することは困難だが、今後も継続的な調査が望まれる。

## 文 献

- 1) 厚生省保健医療局エイズ結核感染症課・国立予防衛生研究所流行予測事業委員会：伝染病流行予測検査術式，1995
- 2) 国立感染症研究所，厚生労働省健康局，結核感染症課：病原微生物検出情報，Vol.31，No.4，115，2010